

森に至る病

浜中なちか
月とゼンマイ <http://www.furbet.com/>

シナリオ制作者より

推奨技能：化学、薬学、博物学、サバイバル（山）など
→なくてもクリアは余裕です。
探索者全員はNPCとある程度、親密な関係であること。

このシナリオの見方

緑色の文字は見ただけでわかる情報を意味しています。
その場所に辿り着いたとき、該当する部分に目を向けたときに探索者が特に意識することなく得ることが出来る情報です。
逆に色がついていない情報に関しては、技能を使ったり調べる意思を持って近づいたりするなど、能動的なアクションによって得られる情報となっています。
過去にKPをやっていたとき、その辺りの情報ミスが多かったので暫定的にこういう処理にしてみました。よければ目安としてご利用ください。

シナリオの目的

物量で攻めたり搦め手を使ってみたり、思いつきで色々試して失敗続きだったので、なるべくシンプルにスタンダードに、をコンセプトに作ったシナリオです。
わりとクトゥルフらしいシナリオになっているかと思います。
実家でやったところ、プレイ時間は探索者作成も含めて4時間程度でした。
プレイ中に探索者が死ぬことは基本的にありえませんが、最終的にロストする探索者はかなりいると思います。覚悟してプレイしてもらってください。

シナリオ背景

NPCの片ノ瀬陸都は夏の終わりに趣味の山歩きで奇妙なキノコを発見。
自宅に持ち帰り、そのキノコの栽培と観察を始める。その後、観察中に孢子が皮膚につき感染。
孢子に触れたことに気付いた片ノ瀬はどうか感染を防ごうと努力したものの、すでに防げる状態でなかったため不浄なるキノコによる支配は進んでしまう。
最後の抵抗か、あるいはよりよい条件での繁殖のためか、片ノ瀬は人知れず別荘の地下に籠もり人としての最後を迎える。
シナリオ開始は片ノ瀬が完全にキノコ化した3月下旬頃。

時系列

9月上旬、片ノ瀬が不浄のキノコを採取
同下旬、観察過程で感染
10月上旬から病欠や無断欠勤が続く
10月末、依願退職、友人たちに連絡が取れなくなると報告
12月、別荘へ移動
翌年3月下旬、完全にキノコ化

NPC

片ノ瀬陸都（かたのせりくと）
森歩きが趣味。人懐こく人と写真を撮るのが好き。誘われたら滅多なことでは断らない付き合いのいい人物だった。親類から生前贈与された別荘を持つてる。
植物学の助教とかトレッキングのガイドとか、探索者たちの職業に合わせる感じで。
STR 10 CON 12 POW 11 DEX 10
APP 10 SIZ 13 INT 13 EDU 18
SAN 55 LUK 55 IDE 65 KNO 90
耐久力 12.5 MP 11 DB 0

不浄のキノコについて(「マレウス・モンストロルム」P.101)

ミ=ゴによってもたらされた寄生生物の一種。
このキノコの孢子は粘着質で、素肌に触れると数分のうちに皮膚を貫き、対象者をキノコへと変質させはじめる。
2D10分以内に強い科学溶媒や殺菌性の薬品などで洗い流す、感染部位に火を当てて焼くなどの（痛みを伴う）行為で取り除ける。感染が確定した場合、2時間以内に感染箇所を切り落とせば命は助かる。
感染者はキノコに意識を乗っ取られ、キノコ化を進行させるために無意識の行動を取るようになる。人付き合いが減り、医者診察や治療を拒む。ジメジメしたところを好み、家に閉じこもるようになる。
感染者は毎月STR、CON、DEX、移動を2ポイントずつ失い、0.5ずつPOWを得る。STR、STR、CON、DEX、移動のすべてが0になったとき、完全なキノコになる。

導入

友人同士の雑談の中で、最近、片ノ瀬と会っていないことに気付く。同窓会とか共通の友人の結婚式とかあったんじゃないですかね。

半年ほど前から約束のキャンセルやドタキャンが続き、しばらく仕事が忙しく遊びには行けそうにないと言われたのち、ここ3ヶ月は連絡さえ取れていない。

片ノ瀬の性格を知る探索者たちは、異常事態だと判断し検索することにした。

ロールプレイをしたければ自由にどうぞ。必要があれば片ノ瀬の性格や職業などもその場のノリで決めてください。

CON、DEX、移動すべてが0になるとDNAを持たないスポンジ状の完全なキノコと化す。

探索場所

自宅に電話→未所持

携帯に電話→不通（お客様の都合で……）

職場に電話→退職したと告げられる

警察に相談→検索願出しておきますね

親類に相談→ほぼ天涯孤独、親戚はいるが海外で連絡取れません

知人に相談→同じように半年前くらいから会っていない

職場

助教の場合は大学、トレッキングガイドの場合は事務所。

どちらも女性の事務員が対応してくれる。

片ノ瀬の名前を出すと、すぐに半年くらい前から病欠や無断欠勤が続き、その後、依願退職という形で辞めていることを教えてもらえる。

さらに、私物がほぼ残っていて、そろそろ処分する予定だったから、よかったら引き取ってくれ、と頼まれる。

片ノ瀬の私物

○着替えや文具一式、メモ帳、卓上カレンダー、救急セット、マグカップ、歯ブラシセット、タオル類、写真十数枚、本数冊など

○卓上カレンダー

山に行った日に印がしてある。8月の終わり頃と、それ以前は1ヶ月おきくらいに。

○写真

職場の人たちと、どれも親しげに笑っている。

○本

山に関するものがいくつか、新しい本でキノコ図鑑。

半年前の様子

病欠していたころの様子を聞くと、腕や手にひどい火傷をしていたと教えてくれる。

さらに詳しく聞けば、「治療みたいなものなんだ、遅かったかもしれないけど」と言っていたことがわかる。

自宅

自宅の場所に関しては探索者が友人なので、すでに知っていて問題ありません。ただ職場から先に行った方が展開がスムーズなので、現在地から職場の方が近いなど誘導するとよいかと思います。

鍵はかかってない。部屋は暗く、かび臭い。

間取りは玄関、台所、浴室&トイレ、洋室の1K。都内だが最寄り駅から少し距離がある分、家賃のわりに部屋は広め。もともとは整頓されていたようだが、今は荒れ果てている。家賃は口座引き落としだったため、まだぎりぎり滞納にはなっていない。電気もまだ通っているので、冷蔵庫や炊飯器など機能している。

部屋にあるもの

洗濯機、冷蔵庫、電子レンジ、分別用ゴミ箱、食器棚
テーブル、座布団、机（引き出しあり、壁にたくさんの写真）、デスクトップパソコン、大きな水槽、加湿器、本棚、テレビ、押入

玄関～台所

○洗濯機

洗濯物が中途半端に残されている。洗おうとした意志はあるのか、開けるとカビまみれのボロボロの衣服が詰まっている。

○冷蔵庫

中のものは大変なことになってる。ただし残されていた食材はかなり少ないように見える。

○電子レンジ

○分別用ゴミ箱（可燃・不燃・プラの3個セット）

可燃ゴミにはいつのかわからない生ゴミや、何かで汚れたゴム手袋、プラゴミにはコンビニ飯とかの残骸が入ってる。壁には分別のポスターが貼ってある。

〈目星〉ゴム手袋に何か液体のような物が付着している。ゴミ箱とゴミ箱の間に不揃いな紙片①が落ちている。

○食器棚

一人分にしては多いくらいの食器がそろっている。

片ノ瀬はときおり自宅に人を招いては夕食を振る舞うのが好きだった。

〈アイデア〉 or 〈心理学〉料理が好きというわけではなく、誰かと夕食をともにするのが好きだったのだろうと思出す。

洋室

窓にはカーテン。隙間から光が入らないように乱暴にテープで留めてある。

○テーブル&座布団

食卓用。埃が積もり薄汚れている以外は特に不自然な点はない。

座布団の下に不揃いな紙片②がある。

○机

デスクトップパソコンと書類ラック（仕事の資料）、机上にはノートやレポート用紙が乱雑に散らばっている。机のそばの壁にはたくさんの写真が飾っており、どれも笑顔の片ノ瀬が写ってる。探索者たちの姿もあるだろう。

※ノートは最初数ページしか書かれておらず、ページをめくると不浄なキノコの写真が落ちてくる。→詳細：片ノ瀬の観察メモ

〈目星〉、写真を確認する等のアクションで山小屋の前で撮った写真が目に入る。片ノ瀬所有の別荘で、裏に住所も書いてある。

○大きな水槽

よくわからないものがこびりついていて、水はもとからなかったか蒸発している模様。骨など生物がいた痕跡はない。水槽からは鼻につんとくる（消毒薬の）臭いがする。

水槽の周辺には書き殴られたメモやレポート用紙が散らばっているが、そのほとんどは字が乱れていて判読できない。

アクリルケースの下に不揃いな紙片③が挟まっている。

〈薬学〉or〈化学〉でかなり刺激の強い消毒薬だとわかる。（カビを容赦なく滅する感じの、人体に使用すれば火傷に似た症状が出る）

○加湿器

水が溜れているので機能はしていないが、電源が入ったまま。

○本棚

きちんと整理されている。アルバムや山歩きの本、小説など。

○テレビ

特別壊れている様子はない。めっちゃ埃をかぶっている。

○押入

ふすまの一部が変色している。

〈目星〉ふすまに粘着質そうな何かがこびりついているのがわかる。

ふすまを開けると、気をつけていないと胞子に触ってしまうので注意。

〈幸運〉運良く胞子に触れずに済んだ

押入の中はひどくかび臭く、布団などをどけると不浄のキノコが生えている。(SAN喪失0/1D4)

片ノ瀬の観察メモ

メモには別荘近くの森で得体の知れないキノコを発見したこと、キノコの形をしているが正体がさっぱりわからないこと、そもそもキノコの実像が掴めないこと、キノコを放置していると粘着質の何かがキノコから排出されていること、何かは胞子なのではないかという推測などがまとめられている。読むのに30分程度。

キノコの写真

机に置いてあるノートにはキノコを撮ったと思われる写真が挟まっている。

荒れた地面とそこに生えるマッシュルームのような姿が写っているが、正しく形をとらえることができない。(SAN0/1) またキノコの奥に何か得体の知れないものが横たわっている。〈目星〉もしくは〈アイデア〉に成功したら、それがネズミの形をしたキノコだとわかる。(SAN1/1D3)

不揃いなメモ

大きな水槽、座布団、分別用ゴミ箱を丁寧に調べれば発見できる。

①（ゴミ箱）ゴミ箱でキノコを発見したので燃やした→実験で使ったゴム手袋から菌糸が広がった？捨てるときは注意しよう

②（座布団）胞子の活動を完全に止めるために市販のカビ除去剤を使用した

③（水槽）駄目だった、もっと強力な薬品を用意しなければ、最悪の場合は火を使うしかないか

ファンブル

家を探索中にファンブルを出した場合、キノコを発見してしまう。(SAN喪失0/1D4) 触らなければ感染はしない。

別荘

鍵はかかっておらず、扉は半開き。

玄関から入るとリビングダイニングがあり、奥にキッチン左手に個室が二つ。キッチンの右奥に風呂場など。リビングダイニングの右奥から屋根裏に上がる階段。リビングとキッチンの中の廊下に地下への階段がある。ちょうど屋根裏への階段の下にドアがある感じ。リビングかキッチンを探せば懐中電灯とか。

室内には埃が積もっているが、玄関から建物の奥まで泥混じりの足跡が続いている。詳しく調べれば、それが数ヶ月くらい前のものであることがわかる。

足跡を追っていくと、地下階段前の扉まで続いている。鍵はかかっていない。

扉前〈聞き耳〉何も聞こえない。

地下室は真っ暗。そのまま降りるなら、技能に大きくマイナス補正がつく。

地下室で〈聞き耳〉キノコが発する奇妙な音が聞こえてくる。囁くような、キーキーと鳴くような、あるいは何かがこすれるような、その異常な音を聞いた探索者は**0/1の正気度ロール**。

別荘地下

地下は暗く、湿度が異様に高い。明かりを持っていれば、壁から地下水がにじみ出ているのがわかる。地下室にはキノコが放つ不思議な匂いに満ちている。

奥には壁にもたれるように座り込んだ姿のキノコがある。その姿は紛れもなく片ノ瀬であり、目撃した探索者は**1D4/1D10の正気度ロール**。

キノコと化した片ノ瀬に触るなり〈目星〉をするなりアクションを起こせば、彼はまだ生きてることがわかる。肉体はスポンジ状でありとても思考しているようには見えないが、確かにそれは、命を持っている。

片ノ瀬の周辺には例のマッシュルームのようなキノコが群生して胞子をまき散らしている。キノコの姿を目視しようとしても、どうしても焦点が合わない。キノコの方に視線を向けた瞬間、急激に視力が悪化したような感覚になる。キノコから視線をそらせば視界は通常に戻る。

見る度にキノコは色を変え、意識する度に匂いも変わる。一度でもキノコに視線を向けた探索者は**0/1D4**の、〈目星〉などしてしっかり観察してしまったら、**1/1D4+1の正気度ロール**。

部屋の隅には動きの鈍くなったネズミがいる。近づけば逃げるが基本的に動かずじっとしている。捕まえようと思えばあっさり掴まってしまう。

エンド

基本的に別荘地下まで辿り着けばシナリオエンドです。
あとは探索者たちの行動などによって、エピローグを作ってください。
以下は目安。

警察等、外部の人間を別荘地下に呼んだ場合

関わった人間を中心に、集団変死事件として数年かけて大量の（名目上の）死者を生む。
変死前に奇行に走ることも報じられ、世間を大きく混乱させるだろう。
やがて新種の病原菌として処理され、感染者の焼却義務など新たな対処法が確立されるまで、キノコによる恐怖は続くだろう。

片ノ瀬を放置して帰還した場合

別荘地でときおり失踪者が出るが、大した報道がされることもなく静かに埋もれていく。
もしも再び訪れる探索者がいるとしたら、毒キノコに注意という看板がそこかしこに掲げられている光景を目にするかもしれない。
不浄のキノコによって、その地域は完全に汚染されてしまったのだ。キノコの猛威は静かに、だが確実にこの国全土を覆うだろう。
また片ノ瀬の自宅があった地区で、少しずつだが着実に失踪者の数が増えていくだろう。
そのうちの何割かは失踪する数ヶ月前にキノコを目撃していたかもしれない。

片ノ瀬の別荘、および自宅で発見したキノコを焼却処理などした場合

感染は広がることなく、人間社会の平穏は守られるだろう。
だが、あなたたちは知っている、あの別荘地の森のどこかに群生地が残されていることを。
あるいはもっと別の場所に。
あなたたちが得たのはつかの間の平和かもしれない。もしもあなたたちの日常の中にあのキノコが混ざっていたら……？
あなたたちはこれから先ずっと、その恐怖と戦って生きなければならないのだ。

探索者が衣服や靴の焼却処理などを行わなかった場合

探索者の行動範囲で不確実なキノコという都市伝説が囁かれるようになる。
路地裏や空き地など人の少ない暗がりに、それはひっそりと息をひそめて生えている。そのキノコの姿は人の知覚で捕らえることができず、見えたと思ったら消えている。
視界の隅にそれが見えたら、決して直視してはいけない。もしも見てしまったら……というような内容。
そう、まさにそのキノコが、あなたの視界の隅に。

キノコの胞子に触れた探索者の末路

二時間以内に胞子を確実に除去しなければ、その探索者は半年ほどかけてキノコへと変貌していく。
まず友人たちとの交流を断ち、ひとりじめじめした暗いところに籠もるようになる。やがては自分の意志もなくし、ただキノコとして生きる存在になり果てる。それは確実に訪れる未来である。
探索者、ロストです。